

## 京都円光寺旧蔵 閑室元佶手沢本目録

宇津 純

円光寺は、徳川家康により慶長六年（一六〇二）伏見に創建せられた。開山閑室元佶（別号三要、一五四八—一六二二）は、足利学校第九世座主を務めた当代一流の知識人であり、家康の信任厚く、内政・外交にも関与することが多かった。家康は、足利学校に倣ってここに学校を開かせ、文教の中心とすることを計画し、典籍二〇〇余部を下賜したという。また、家康が元佶に木活字一〇万個を与えて刊行させた古活字版（伏見版）の開版も円光寺で行われた。円光寺は、その後、相国寺内さらに現在地（左京区一乗寺小谷町）と移り今日に至るが、その蔵書は、

明治三十九年（一九〇六）に帝国図書館の一括購入するところとなった<sup>(1)</sup>。現在当館に所蔵される円光寺旧蔵書は四〇三点、約一三〇〇冊あり、その大半は仏書で、五世魯山玄瑠・六世春江玄功ら歴代住持の蔵書印・識語のあるものも多い<sup>(2)</sup>。しかし、中心を

なすものは開山元佶の手沢本六〇点余りであり、自筆本、書き入れ本、家康・秀忠からの拝領本などが含まれている。これらは、仏典以外の漢籍が多いのが特色だが、元佶は五山文学の伝統を受け継ぎ、足利学校で教育にもあたり、儒学・漢詩文の伝詣は深いものがあつたので、彼の手沢本としてふさわしいものと言えよう。朝鮮本が漢籍の八割以上を占めるのも目立つ。元佶手沢の確証のないもの数点も含めれば、円光寺旧蔵書中の朝鮮本は約五〇点を数えるが、これらには、家康から下賜された二〇〇余部中のももの多いのではないかと推測される。

本目録は、この元佶手沢本をまとめて紹介するものである。元佶手沢本については、すでに朝倉治彦氏によつて、「円光寺旧蔵三要手沢本」として調査発表せられており<sup>(『典籍』一三号、昭和二九年九月)</sup>、本目録もこれに負うところが大きい。

なお、元佶の手沢本は、他に足利学校遺蹟図書館にもまとま



元信自署・花押



「敬復齋」黒印



鼎形朱印と「雪」字墨書

元信自署・花押と蔵書印

って伝存している。これは、元信の足利学校在任時のものと、  
円光寺から恐らく元信寂後に移されたものからなる<sup>(3)</sup>。また、  
京都府立総合資料館に円光寺旧蔵の朝鮮版『礼記大文』・伏見版  
『孔子家語』が所蔵されるなど、元信手沢本はなお諸方に存す  
るようであるが、これらの調査や全体的な分析等は将来を期し  
たい。

(1) 購入の経緯については、西村正守氏「上野図書館こぼれ話(中)」(三)図書蒐  
集旅程報告書(『日本古書通信』三三三号、昭和五〇年五月)参照。

(2) 『国立国会図書館所蔵個人文庫展—古典籍探求の軌跡—展示会目録』(昭和  
五八年) 京都円光寺旧蔵書の項参照。

(3) 川瀬一馬氏『増補新訂足利学校の研究』(昭和四九年) 第二章参照。

### 凡 例

- 1 本稿は、主として、蔵書印・識語・書き入れ等により元信手  
沢本と判定されるものを採録した。
- 2 収録書は、漢籍と国書に大別し、漢籍は四庫分類とした。
- 3 各分類の中は、冠称を除いた書名の五十音順に排列し、冠称  
と判断される部分は( )で括った。
- 4 蔵書印・識語等の記述は、元信・円光寺関係以外は、概ね省  
略した。
- 5 寸法は縦×横で示し、単位はセンチメートルであるが、記入  
は省略した。郭内の寸法は原則として巻頭に拠った。
- 6 字体は原則として常用漢字体に拠った。
- 7 へゝ内は当館の請求記号である。

漢籍

1 經部

1 韻會玉篇 二卷 朝鮮崔世珍〔朝鮮〕刊 二冊

〈八二二—一四〉

二八・八×一九・七、四周双辺、有界、郭内二四×二七・一、  
每半葉九行、各行一七字。第一冊首「敬復齋」黒印。各冊末  
鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書、「敬復齋」黒印。

2 爾雅注疏 一一卷 晋郭璞注 宋邢昺疏〔近世初期〕写 二冊

〈WA 一六一—一四〉

二五・七×一九・六、墨罫紙に書写、郭内一九・七×一五・  
五、每半葉九行、各行約二二字、注文双行。数人の寄合書。  
序、卷一、卷六前半は元佶の筆跡に酷似。卷一、三、五、八、  
一一末鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書。卷一一末「円光寺常  
住 元佶(花押)」自筆墨書、「敬復齋」黒印。各冊首「瑞巖円  
光禪寺藏書」朱印、「閑室大和尚手沢本」墨書。

3 爾雅註疏 一一卷首一卷(首、卷一、四、五、八欠) 晋郭璞  
注 宋邢昺疏〔朝鮮〕刊(活字版) 三冊合一冊

〈八二〇—一〇〉

三二・八×二二・六、四周双辺、有界、郭内二五・一×一六・  
九、每半葉一〇行、各行一七字、注文双行。卷三末「敬復齋」  
黒印。

4 四声通解 二卷 朝鮮崔世珍奉命編〔朝鮮〕正徳二二(一五  
一七) 序刊 二冊合一冊

〈八二〇—一八〉

三四・五×二二・五、四周双辺、有界、郭内二三・一×一六・  
四、每半葉一〇行、各行一九字、小字双行。下卷末「敬復齋」  
黒印、「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

5 詩伝大文 存卷上〔朝鮮〕刊 一冊

〈八二〇—一三〉

三二・六×二二、四周双辺、有界、郭内二三×一六・三、每  
半葉一〇行、各行二二字、注文双行。卷末に鼎形朱印に重ね  
て「雪」字墨書。

6 釈名 八卷 漢劉熙〔近世初期〕写 一冊

〈WA 一六一—二〇〉

三一・六×二二・五、墨罫紙に書写、郭内二二・六×一六・  
二、每半葉九行、各行二〇字。「刻釈名序」(嘉靖甲申冬十二  
月既望谷泉儲良材邦掄又撰)、「重刊釈名前序」(嘉靖三年冬  
呂柚序)あり。序首「敬復齋」黒印。卷末「円光寺常住 元  
佶(花押)」自筆墨書。

7 周易伝義大全 二四卷首一卷 明胡広等奉勅撰 朝鮮嘉靖五  
(一五二六) 羅州刊(活字版) 一四冊

〈八二〇一七〉

三三・二×二一・八、四周双辺、有界、郭内二五・六×一八、  
每半葉一〇行、各行一九字、注文双行。第一冊末刊記「嘉靖  
四年羅州都会木字開刊周易印出甲申三月始後丙戌正月功訖」。  
第一冊首「敬復齋」黒印。

8 (纂圖互註) 周礼 漢鄭(玄)注 存卷一、二(朝鮮)刊 一  
冊

〈WA三六一一〉

二七・五×一八・二、左右双辺、有界、郭内二三・三×一四・  
二、每半葉八行、各行一七字、二〇字、注文双行二〇字。卷  
頭「敬復齋」黒印。

9 春秋胡氏伝 三〇卷(卷一、三欠) 宋胡安国(朝鮮)刊 七  
冊合五冊

〈八二〇一二九〉

三一×二〇・二、四周双辺、有界、郭内二三・五×一六・六、  
每半葉一〇行、各行一九字、注文双行。第五冊末「円光寺常  
住本之内 元佶(花押)」自筆墨書、「敬復齋」黒印。

10 書伝大全 一〇卷図一卷 宋蔡沈(朝鮮)刊 九冊

〈八二〇一五〉

三五・四×二一・六、四周双辺、有界、郭内二二×一六・三、

每半葉一〇行、各行二二字、注文双行。第一、九冊末「敬復  
齋」黒印。第九冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

11 中庸集略 二卷 宋朱熹編(朝鮮)刊 二冊合二冊

〈八二二一三四〉

二八×一八・五、四周单辺、有界、郭内一九・八×一四・二、  
每半葉八行、各行一八字。各卷末「敬復齋」黒印。

## 2 史部

12 伊洛淵源録新增 一四卷 宋朱熹撰 明楊廉補(朝鮮)嘉靖  
四一(一五六二)跋刊 三冊

〈八二〇一二二〉

三三×二一、四周单辺、有界、郭内二二・二×一六・七、每  
半葉一一行、各行二一字。第一冊末「円光寺常住 元佶(花  
押)」第三冊末「円光寺常住 元佶」自筆墨書。第一、三冊末  
「敬復齋」黒印。

13 項上一鬚(朝鮮)写 一冊

〈八二〇一二三〉

三三・三×二一・六、無界、字高約二四・五、每半葉一〇行、  
各行一八字。全一八葉。「漢書」項籍伝の抄写。卷頭に鼎形朱  
印を二重に押捺し、さらに重ねて「雪」字黒書。

14 皇明名臣言行錄 九卷 皇明理學名臣言行錄 二卷 明楊廉編〔朝鮮〕刊 三冊

〈八二〇—一八〉

三三・五×二一・七、四周單邊、有界、郭内二・六×一六・九、每半葉二行、各行三字。第一、三冊末「敬復齋」黑印。第三冊末「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書。

15 國語 二二卷 吳韋昭注 宋宋庠補音〔朝鮮〕刊（活字版）六冊

〈八二〇—一九〉

三四・五×二一・八、左右雙邊、有界、郭内二・五×二・二六・八、每半葉一〇行、各行一七字、注文双行。第一、六冊末「敬復齋」黑印。第六冊末「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書。第一冊卷頭と各冊首及び末「瑞巖円光禪寺藏書」朱印。

16 史記 一三〇卷（卷五、一一、一五、一七欠）漢司馬遷撰 宋裴駟集解 唐司馬貞索隱 唐張守節正義〔朝鮮〕刊（活字版）四一冊

〈八二〇—一六〉

三六・五×二一・九、四周雙邊、有界、郭内二・五×一六・七、每半葉一〇行、各行一七字、注文双行。第一、四〇冊末鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書。第四一冊末「敬復齋」黑印。

17（増修附註）資治通鑑節要統編 三〇卷（存卷一、二五、二六、二八、二九）明劉剡編〔朝鮮〕刊 三冊

〈八二〇—二二〉

三五×二一・六、四周單邊、有界、郭内二・三・六×一六・五、每半葉一〇行、各行一九字。第一冊末「敬復齋」黑印。

18 宋史 存卷一、三〔朝鮮〕刊 三冊

〈八二一—二二〉

二七・二×二一・六、四周單邊、有界、郭内二・一×一七・一、每半葉一行、各行二〇字。太祖から南宋度宗までの編年史、卷三に遼史付載。第一、三冊末「敬復齋」黑印。

19（太師徽國）文公年譜 一卷附録一卷 明孫叔拱等校〔朝鮮〕刊 二冊

〈八二〇—一七〉

三一・二×二〇・九、四周雙邊、有界、郭内二・一×一四・七、本文每半葉八行、各行一五字、小字双行。第一冊末刊記「□西仇村黃氏刊」。各冊末「敬復齋」黑印。

20（唐）陸宣公集 欠本（存卷一、一七、一九、二二）唐陸贄〔朝鮮〕刊、二冊

〈八二〇—三六〉

三〇・四×二〇・二、左右雙邊、有界、郭内二・四×一五・七、每半葉一〇行、各行一七字。現形卷次乱れあり、第一冊に卷一、一、一三、一七（二六、二六丁のみ）、二一、第二冊に卷一四、一六、一九。各冊末「円光常住 元佶（花押）」自筆墨書。

3 子部

21 七書 (三略・六韜欠) (室町時代末期) 写 一冊

〈WA一六一七〉

書名は原題簽による。二〇・五×一五・七、字高約一八・五。本文はほぼ三人の筆。『呉子』後半、『司馬法』、『唐太宗李衛公問对』は元佶の筆跡に酷似。『司馬法』巻下末「右朱点者以環翠軒自筆自点之本写之」朱書。享保四年の円光寺文書によれば、寺蔵の「書本之七書」は、関ヶ原合戦の際に元佶が家康の陣中に持参したものであるという。

22 朱子書節要 一五卷 宋朱熹撰 朝鮮李滉編 (朝鮮)隆慶元

(一五六七) 跋刊 八冊

〈八二〇一三二〉

三四・五×二二・五、四周单边、有界、郭内二四・九×一八。  
二、每半葉二行、各行二二字。第一、八冊末「敬復齋」黒印。第八冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

23 (劉向) 新序 一〇卷 漢劉向 (朝鮮) 刊 二冊

〈八二一一四〉

二八・七×一九・三、四周双边、有界、郭内一八・二×一四。  
七、每半葉一行、各行一八字。各冊末「敬復齋」黒印。第二冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

24 (校正劉向) 說苑 一六卷 漢劉向 写 四冊

〈八二〇一三三〉

三一・八×二二・七、墨罫紙に書写、郭内二六・二×一八、每半葉一〇行、各行約二四字。第一冊目錄末「永樂丙申孟春西園精舍新刊」とあり。第一冊巻頭、第四冊末「敬復齋」黒印。第四冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

25 聖学十図付戊辰封事 朝鮮李滉 (朝鮮) 刊 一冊

〈八二〇一一〉

三五×二一・一、四周单边、有界、郭内二三・三×一六・五、每半葉一行、各行二二字。巻末「敬復齋」黒印、  
□□□□  
元佶(花押)」自筆墨書。

26 (新編音点) 性理群書句解 前集二三卷(卷一、九欠) 後集

二三卷 宋熊節編 熊剛大注 朝鮮永樂一三(一四一五) 跋刊

後印 三冊

〈八二一一一〇七〉

目錄首等は「新刊音点性理群書句解」。二五・六×一五・四、四周双边、有界、郭内一八・一×一一・五、每半葉一三行、各行二四字、注文双行。後集卷二二末刊記「平壤府重刊」。第二冊末「敬復齋」黒印。

27 続三綱行実図 三卷 朝鮮申用溉等奉命編 (朝鮮) 正徳九

(一五二四) 序刊 一冊

〈八二〇一三〉

三七・四×二一・三、四周双辺、有界、郭内二四・八×一六・七、本文每半葉一三行、各行二字。每葉表に挿絵、上郭外にハングル、每葉裏に本文。首に「瑞巖円光禪寺藏書」朱印。卷末「敬復齋」黒印、「拝領 円光寺常住 元信(花押)」自筆墨書。

28 続編皇命総括新集 八卷 雲嶼存真老人編 (朝鮮)刊(活字版) 一冊  
〈八二一—一〉

二八・八×一八・六、四周单辺、有界、郭内二・九×一四・七、每半葉九行、各行一七字。卷末「円光寺常住 元信(花押)」自筆墨書、「敬復齋」黒印。

29 続蒙求分註 四卷 朝鮮柳希春 (朝鮮)刊(活字版) 四冊  
〈八二〇—一一〉

三三・五×二〇・四、四周单辺、有界、郭内二四・一×一六・一、每半葉一〇行、各行二字。第一冊末「円光寺常住」自筆墨書。第四冊末「円光寺常住 元信」自筆墨書。

30 (大藏經) (高麗 高宗三八(二五二)頃)刊 後印 存一三冊  
〈WA三—一二〉

約三八×二九、上下单辺左右無郭、無界、上下匡郭間二二・五、每半葉二二行、各行四字。第一冊 仏説仏名經 卷一、三 末に「敬復齋」黒印。第二冊 同上 卷四、七 末に「敬復齋」黒印。第三冊 同上 卷八、一一 第四冊 六

度集經 卷一、五 末に「敬復齋」黒印。第五冊 同上 卷六、八(合刻六經) 末に「敬復齋」黒印。第六冊 仏説波斯匿王太后崩塵土空身經 一卷(合刻一〇經) 第七冊 過去現在因果經 卷二、三 末に「敬復齋」黒印。第八冊 百喻經 四卷 菩薩本緣經 卷上 第九冊 大仏頂如来密因修證了義諸菩薩万行首楞嚴經 卷一、五 末に「敬復齋」黒印。第一〇冊 同上 卷六、一〇 第一一冊 釈迦氏譜 一卷 釈迦譜 卷四 卷末に綴込の菩薩本緣經卷下末葉に「敬復齋」黒印。第一二冊 釈迦方志、二卷 卷上末に「敬復齋」黒印。第一三冊 大唐貞元統開元釈教録 三卷 末に「敬復齋」黒印。

31 大定易數集成 前集一卷 (宋邵雍(?)) (朝鮮)刊(活字版) 一冊  
〈八二一—一七〉

目錄首「康節先生大定集成」。二七×一八・五、四周单辺、有界、郭内二一・八×二四・七、每半葉九行、各行一七字、小字双行。原表紙「拝領朝鮮本/康節先生大定集成 全」朱書。卷末「敬復齋」黒印、「円光寺常住 元信(花押)」自筆墨書。

32 対類 二〇卷 撰者未詳 刊 一〇冊合八冊  
〈別図五八—一七〉

二八・二×一七・一、左右双辺、有界、郭内二〇・七×一四・九、每半葉二二行、各行二四字、小字双行。総目末刊記「金陵徐智督刊」卷五、九、一〇、一三、一五、一八、二〇 卷頭

「新安吳勉学攷註重梓」。卷一末「敬復齋」黑印。卷一、二、四、五、六、九、一二、一五末鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書。

33 (新註) 無冤錄 二卷 元王與撰 朝鮮崔致雲等注 (朝鮮) 写 一冊

〈八二二—一〉

二八・七×一九・九、無界、字高約二六・五、每半葉一一行、各行二二、二三字。卷末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書、「敬復齋」黑印。

34 (唐段少卿) 酉陽雜俎 二〇卷 唐段成式 (朝鮮) 弘治五(一九二) 跋刊 後印 二冊

〈八二二—一九〉

二八・四×二六・七、四周双辺、有界、郭内一八・六×一二・二、每半葉一〇行、各行一九字。第一冊末「敬復齋」黑印。

#### 4 集部

35 一峯先生文集 一一卷 明羅倫撰 雜元標編 明正徳一一(一五六) 刊 二冊

〈WA三五—一八〉

二五・五×一六・三、左右双辺、有界、郭内一九×二三・二、每半葉一〇行、各行一九字。第二冊末木記「正徳丙子/仲冬月刊」、左下に「姑蘇陸潮刻」。第一冊末「学校円光 元佶」自

筆墨書、「敬復齋」黑印。第二冊末木記下「元佶(花押)」自署、「敬復齋」黑印、上匡郭外「円光寺常住」自筆墨書。各冊表紙「開山大和尚御所持」墨書。

36 御製文集 二〇卷 明太祖 (朝鮮嘉靖二五(一五六六)) 刊(活字版) 六冊

〈八二〇—四〉

三五・九×二二・八、四周双辺、有界、郭内二五・三×一七・一、每半葉一〇行、各行一七字。第一、六冊末「敬復齋」黑印。第六冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。第一冊目錄首「宣賜之記」朱方印、第一葉内賜記「嘉靖二十五年十月 日/内賜完山君壽誠/御製文集一件/命除謝/恩/右承旨臣李(花押)」墨書。名古屋市蓬左文庫藏駿河御讓本と同版。

37 桂苑筆耕集 二〇卷 新羅崔致遠 (朝鮮) 刊 三冊

〈八二二—一三〉

二九・三×二〇・五、四周双辺、有界、郭内二三・四×一六・三、每半葉一〇行、各行二一字。第一、三冊末「敬復齋」黑印。第三冊末「円光寺常住 元佶(花押)」自筆墨書。

38 三韓詩龜鑑 三卷 高麗趙云佐編 崔瀛批点 朝鮮嘉靖四五(一五六六) 順天府刊 一冊

〈八二〇—二一〉

三三・四×二二・一、四周双辺、有界、郭内二三・八×一七・五、每半葉八行、各行一四字。刊記「嘉靖丙寅冬順天府重刊」。



卷末「円光常住 元佶（花押）」自筆墨書、「敬復齋」黒印。

39 十省堂集 二卷 朝鮮巖昕 朝鮮万曆一三（一五八五）定山県刊 二册合一册  
〈八二〇—二〇〉

三三・二×二一、四周单边、有界、郭内二二×一五・五、每半葉一〇行、各行一八字。卷下末刊記「万曆乙酉秋七/月定山県開刊」。原第一、二册末「敬復齋」黒印。原第二册末「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書。

40（箋註）靖節先生集 一〇卷 晋陶潜（朝鮮）刊 二册  
〈八二〇—三二〉

三二・一×二一・六、四周双辺、有界、郭内二六・三×一六・八、每半葉一〇行、各行一八字、注文双行。第二册末「敬復齋」黒印、「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書。各册首「瑞巖円光禪寺藏書」朱印。

41 楚辞後語 六卷 楚辞弁證 二卷 宋朱熹撰 朝鮮李峻然等校 朝鮮（端宗二年（一四五四）密陽府李崇之刊 後印 一册  
〈八二一—二〉

二八・四×一八・三、四周双辺、有界、郭内二一・三×一四・九、每半葉一一行、各行二一字、小字双行。卷末刊記（上略）甲戌五月日密陽府開刊。卷末「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書、「敬復齋」黒印。

42 蘇詩摘律 六卷 宋蘇軾撰 明劉弘集註（朝鮮）刊 一册  
〈八二一—一〇〉

二六・四×一八、四周双辺（？）、有界、郭内一九・九×一四・七、每半葉二行、各行一九字。卷末「敬復齋」黒印、「元佶（花押）」自署。

43 中州集 一〇卷 総目一卷 樂府一卷 金元好問編（南北朝時代）刊 五册  
〈WA六一二七〉

書名は序首による。二六・五×一七・五、左右双辺、有界、郭内一九・五×二・五、每半葉一五行、各行二八字、注文双行。第一、四、五册末「敬復齋」黒印。第五册末「円光寺常住/元佶（花押）」自筆墨書。各册首「瑞巖円光禪寺藏書」朱印。

44（須溪校本）陶淵明詩集 三卷 晋陶潜撰 宋劉辰翁校（朝鮮）成化一九（一四八三）跋刊 後印 一册  
〈八二一—一八〉

二八・五×一七、四周双辺、有界、郭内二〇・二×一四・一、每半葉一〇行、各行一六字。卷末「円光寺常住 元佶（花押）」自筆墨書、「敬復齋」黒印。

45 唐詩正音輯註 存卷一上、二上、四 元楊士弘編 明張震輯註（朝鮮）刊 二册  
〈八二〇—三七〉

二九・七×一八・九、四周双辺、有界、郭内二一・三×一四・五、每半葉九行、各行一七字、注文双行。第一冊末「敬復齋」黒印。

46 (増刊校正王状元集註分類) 東坡先生詩 二五卷目錄一卷東坡紀年録一卷 宋蘇軾撰 王十朋編 劉辰翁批点 (朝鮮) 刊

一四冊

〈八二〇一七〉

三三・八×二一・二、四周单辺、有界、郭内二四・一×一六・七、每半葉一〇行、各行一七字、注文双行。第一冊末「敬復齋」黒印。

47 (須溪先生批点) 杜工部五言律詩 二卷 杜工部七言律詩 一卷 唐杜甫撰 宋劉辰翁批点 (朝鮮) 刊 (活字版) 三冊合

一冊

〈八二〇一三〇〉

三一・五×二〇・二、四周双辺、有界、郭内二三・四×一五・六、每半葉九行、各行一八字、注文双行。原各冊末鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書。原第一、三冊末「敬復齋」黒印。原第三冊末「円光寺常住 元佶 (花押)」自筆墨書。

48 風騷軌範 前集一六卷後集二九卷 (朝鮮成俔) (朝鮮) 刊

二一冊

〈八二一五〉

二八×一九・二、四周双辺、有界、郭内一九・五×一四・八、

每半葉二一行、各行一八字。第一冊(前集卷一)、第八冊(後集卷二)末「敬復齋」黒印。第二冊末「円光寺常住」(以下破損)自筆墨書。

49 慕齋詩集 存卷五 (朝鮮金安国) (朝鮮) 刊 一冊

〈八二〇一八〉

三〇・一×一九・八、四周单辺、有界、郭内二二・一×一六・六、每半葉一〇行、各行二〇字、注文双行。卷末「円光寺常住 元□」自筆墨書。

50 (須溪先生批点) 孟浩然集 三卷 唐孟浩然撰 宋劉辰翁批点 (朝鮮) 刊 一冊

〈八二一六〉

二五・二×一九、四周双辺、有界、郭内一九・五×一四・八、每半葉一〇行、各行一六字、注文双行。各卷頭刊記「吉安成 彭 元鼎 校正刊行」。卷末「円光寺常住 元佶 (花押)」自筆墨書。「敬復齋」黒印、鼎形朱印に重ねて「雪」字墨書。

51 文選 欠本 梁蕭統編 唐李善等注 (朝鮮) 刊 一二冊合一九冊 (取り合わせ本)

〈八二〇一六〉

卷三、四、二五、二六、二八、三〇は五臣注、整版(原三〇卷)。三二・六×二一・二、四周单辺、有界、郭内二二・七×一六・七、每半葉一〇行、各行一七字、注文双行。卷三〇末「敬復齋」黒印。卷六、八、一四、三二、四〇、四五、四六、

五一、五二、五四、五六、五九は六臣注、活字版(原六〇卷)。  
三三×二二、四周双边、有界、郭内二五×一七、每半葉一〇  
行、各行一七字、注文双行。

52(河東重刻)陽明先生文錄 五卷(卷一、二欠) 外集九卷(卷

五、六欠) 別録一〇卷 明王守仁 刊 一七冊合八冊

〈八二一—三二六〉

新表紙題簽「王陽明全集」。二六・六×一六・三、左右双边、  
有界、郭内一九・二×一三・九、每半葉一〇行、各行二〇字。  
卷三末(現第一冊末)、外集卷九末(現第八冊末)「敬復齋」  
黒印。

53(東国)李相国全集 前集三六卷後集八卷 高麗李奎報(朝

鮮)刊 一五冊

〈八二〇—二五〉

三二・六×二二、四周单边、有界、郭内二二・五×一七、每  
半葉一〇行、各行一八字、小字双行。第一、二冊末「敬復  
齋」黒印。第一二冊末(前集末)「円光寺常住 元信(花押)」  
自筆墨書。

54(僂語)編類 二〇卷(卷三、四、七、一三、一八欠) 朝鮮趙仁

奎編(朝鮮)嘉靖二二(一五三三)序刊(活字版) 一五冊

〈八二〇—二六〉

三〇・三×一九、四周单边、有界、郭内二〇・七×一四・七、  
每半葉二行、各行一九字。第一冊序首「宣賜之記」朱印。

第一五冊末「円光寺常住 元信(花押)」自筆墨書。

55(精選)唐宋千家聯珠詩格 二〇卷 宋于濟編 蔡正孫增

(朝鮮)刊(活字版) 二冊

〈WA三六一—一〇〉

三一×一九・八、四周双边、有界、郭内二〇・九×一四・八、  
每半葉一一行、各行一九字。各冊表紙「從家康公揮領 閑室  
元信」朱書。各冊首「瑞巖円光禪寺藏書」朱印。各冊末「敬  
復齋」黒印。第一冊末「敬復齋」黒印脇に「洛東円光禪寺常  
什<sup>右</sup>閑室和尚」墨書。

## 国書

56(益略)韻 存上卷 編者未詳(室町時代末頃)写 一冊

〈WA一六一—五〉

一七・五×一・五、匡郭・界線印刷、郭内一三・四×九、  
每半葉一五行。卷首「円光寺 玄信」墨書、元信自筆か存疑。

57(聚分韻略) 存上平、下平(釈師鍊)編(室町時代初期)

刊 一冊

〈WA六一—五三〉

二六・九×二二、四周单边、無界、郭内一〇・二×八・一、  
每半葉五行、各行大字四字。褶刷部分狭少で余白に書き入れ  
多し。書き入れは若干他筆も混じるが、ほぼ元信の筆。表紙  
「円光寺常住ノ開山閑室和尚之ノ三重韻」墨書。末葉表「玉

質和尚在江之龜泉日／以此書屬予者也／明啓（花押）の天岩明啓（円光寺四世）自筆識語。裏に「付与 樸蔵主 元佶（花押）／慶午小春初二 元佶自筆識語、「樸某／二十一歳ノ時／自西笑和上／招請之年間乎」の異筆識語あり。

58 新選対類 編者未詳 古写 二冊

〈WA二六一六〉

(1) (室町時代末期) 写 上平、下平 一冊。二〇×一六・二、墨罫紙に書写、郭内一四・二×一一・五、每半葉八行。原表紙に「新選対類 全」と白墨書。見返し「閑室大和尚御所持／円光什宝 墨書。(2) (江戸時代初期) 写 上平、下平 一冊。一九・三×一二・七、墨罫紙に書写、郭内一三・七×九、每半葉二行。首に「円光寺 玄佶」墨書。背に「瑞岩山房珍蔵」小口に「新選対類」と墨書。

59 (禅林句抄) 頌徳・自叙・雑句 (釈元佶) 編 (慶長頃) 写 (自筆稿本) 三冊

〈WA一六一一〇〉

総題は当館で付したるもの。表紙には「頌徳木」「自叙火」「雑句水」とある。二七・三×二〇・一、無郭無界、字高約二四。各冊表紙中央下方「瑞岩主人」、頌徳表紙右上「閑室所持」、「自叙」後表紙「瑞岩円光室中」墨書。

60 蒲室疏抄并臆説 (室町時代) 写 四冊

〈WA一六一一六〉

書名は第四冊尾題による。全紙裏打あり、現形三〇・三×二二・三、各冊表紙右下「栖雲室」墨書。朱点、朱引あり、頭注、傍注、訓点等の細字書入れ多く、元佶の筆も混じる。

61 (重撰) 倭漢皇統編年合運図 二巻 釈円智編 (慶長五(一六〇〇)) 京都要法寺刊 (古活字版) 二冊

〈WA七一二二〉

三三×二一・六、四周単辺、有界、郭内二九・二×一六・九、每半葉二行、各行字数不定。上冊末「從將軍拜領之年代記二冊 閑室（花押）」、下冊末「年代記二冊之内 閑室（花押）」自筆墨書。「円光寺由緒書」に「台徳院様年代記全部 御手自三要ニ被下候」とあるものに相当。

付記

天原発微 五巻首一卷 宋鮑雲龍撰 元方回校 明鮑寧弁正 (朝鮮) 刊 (活字版) 一〇冊 二八・二×一九・三、左右双辺、有界、郭内二・六×一四・三、每半葉九行、各行一七字。序首「宣賜之記」朱印、「明治八年文部省交付」朱印。第一冊末「敬復齋」黒印。本書は円光寺旧蔵ではなく、足利学校伝来のものと考えられる(川瀬一馬氏「増補新訂足利学校の研究」・長沢規矩也氏「足利学校旧蔵書展観目録」参照)。

(つつ・じゅん 一般参考課)